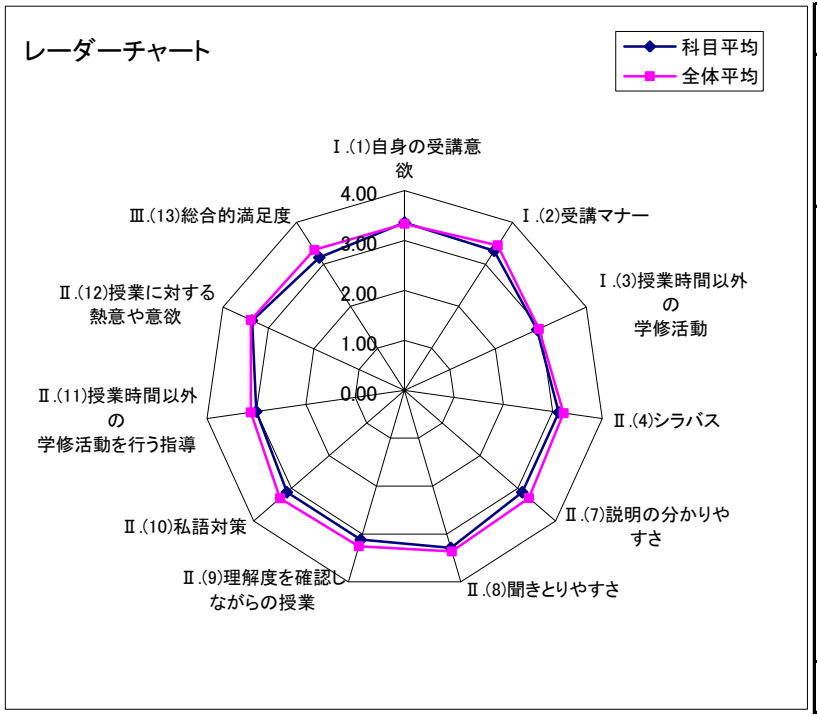
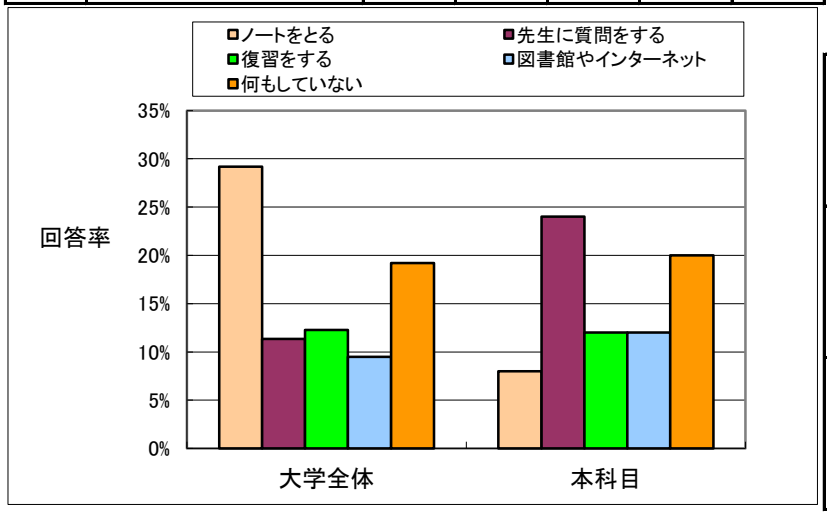
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.36	3.33
	Ⅰ.(2)	3.32	3.45
	Ⅰ.(3)	2.92	2.96
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.12	3.22
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.12	3.30
	Ⅱ.(8)	3.29	3.36
	Ⅱ.(9)	3.12	3.25
	Ⅱ.(10)	3.12	3.30
	Ⅱ.(11)	3.00	3.11
	Ⅱ.(12)	3.36	3.39
総合評価	Ⅲ.(13)	3.16	3.34

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

<※複数選択可項目>		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(14)	授業を理解するための工夫	8.0%	24.0%	12.0%	12.0%	20.0%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.20	3.25
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(12)	3.16	3.28
総合評価 Ⅲ.(13)	3.16	3.34

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度　後期
時間割番号	3132
科目名	レジャー産業論
教員名	

①授業計画の達成度について

講義資料が最新のデータ(前年度の資料が改定される)を活用するため、予定していたシラバスのとうり進んだいたとは言えない。しかし、予定していたテーマの9割以上に言及したと認識している。特に、「テーマパークの経営改善(USJ,ハウステンボスなど)」の取り組みにつては詳しく言及し議論した。「高速道路の祝祭日割引の停止とレジャー行動の変化」は時間をかけ議論すべき内容であったと認識し、時間をかけた。学習の到達目標としては、数人の優れたレポートを見ればかなりのレベルにあると捉えることが出来るが、学習への取り組みの熱意の個人の差が非常に大きいと認識している。難易度としては高学年設定科目なのでやや高めであった。

②授業の進め方について

配布の資料(プリント)とパワーポイント(プロジェクター)を用い解説し、議論を進めた。出来るだけ図表を多く提示し、出来るだけ問いかけを多くしながら議論を進めたつもりである。「この図からどんなん事がわかりますか？」「この表は、どう理解すべきでしょうか？」など学生に質問を投げかけたが、反応して意見を述べる学生が限られようになった。終盤はこちらから指名して意見を述べさせていた。質問を投げかけると、理解してないことが明らかになり、学生からの質問も多く出るようになった。前半の課題である、「生活行動時間調査」に比べると後半の「スポーツ産業の歴史」、「スポーツ用品メイカーの経営戦術」、「テーマパークの経営戦略」などのテーマで議論が深まった感じがあった。前回の講義との連続性があるので、欠席すると議論についてこれない学生がいたかも知れない。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この授業では、綺麗に整理されたノートをとることより、提示された資料をどれだけ深く読み解くか、つまり「思考することが大切！」と学生には強く言っていた。全体の授業評価はやや低いようであるが、「先生に質問をする」が他の科目より多いことが示された。つまり、4人に一人の割合で・質問し、議論に参加していことを示している。インターラクティブな、質問と議論が行われていることを示している。議論に参加しない、したくない学生の評価が低く、評価が2分したのではないかと考えられる。受講生すべての学生が、議論・討論に参加させる工夫を考えたい。

奈良産業大学